

新規就農者を継続サポート

各地の話題

登米市

2019年2月15日 全国農業新聞



登米市では、独自に「就農相談会」を開催している。市産業振興課，県登米農業改良普及センター，JAみやぎ登米，市農業委員会の職員が一堂に会し，新規就農希望者に対して就農に係る農地・資金・技術など専門分野からのサポートを行っている。

市内米山町の石堂貴博さん（43歳）もこの支援を受けて認定新規就農者となった一人だ。東京の建設関係の会社で働いていたが，東日本大震災で被災した故郷に貢献したいという思いから，地元に戻り，2017年に就農した。

当初は手探りで始めたニンニク栽培だが，就農5年目までの新規就農者に対し，関係機関が認定した篤志家を派遣する「登米農業マイスター制度」のマイスターから個別技術指導を昨年からは受けようになり「栽培技術の面でも相談をしやすくなった」と話す。

登山が趣味で自然が大好きな石堂さんは「農作業をしても周りの風景を見ると大変さは忘れてしまいます。今後は規模拡大を目指し，地元の方から担い手の一角として農地を託されるようになりたいです」と話す。現在は農業次世代人材投資事業により市からの切れ目のない支援が続いている。

【記事提供：登米市農業委員会】